

# 人造少女





# 目次

僕 . . . . .	1
私 . . . . .	2
僕 . . . . .	3
私 . . . . .	4
僕 . . . . .	5
私 . . . . .	6



僕

お屋敷の中  
簡単に開けては駄目だよ と言いつけられていた屋根裏部屋。

禁じられていた知恵の実は  
禁じられていたからこそ価値を含んでいた果実

後々思えば同じなのかもしれない

お父様や乳母も街へ出て  
屋敷には僕しか居ない

簡単に？  
少しの覚悟があるとしたら、許されていたのだろうか。

私

ご主人様が掛けて下さった  
足首や、手首。首に絡まっているモノ

ご主人様から頂いたお椅子  
少し窮屈だけれど  
とても愛している

足音が聞こえる  
聞いたことの無い、足音が聞こえる。

僕

僕は  
行かなければ行けないって思ったんだ

階段をゆっくりと上る。

するとどうだろう  
綺麗な女の子の人形がある。

自立型人格ドールだろうか？  
そのように模造された、本物の女の子だろうか？

たくさんの楔があった  
きっとこの子は囚われている身なのだろうと  
僕は助ける事にした

私

見たことが無い姿  
聞いたことが無い声

きっと男の子だ。

私を結んで頂いていたリボン  
それを次々と外してゆく。

私はここから出たくない  
私はここに居たい  
私は出てはいけない存在

私は声を持たない  
それはご主人様が塞いでくれていた口枷や喉元  
脚が足りない  
それはご主人様が私の願いを聞いてくれた事

初めて見る男の子へ  
伝える事が出来ない



僕

動けるかい？  
女の子に問う。

彼女は声が出ないようだ

其の眼差しは  
長いまつ毛と少しの涙で綺麗に輝いて

ああ、そうだね  
僕が連れ出してあげるから  
こんなところよりも  
一緒に行こう？

私

ずるずると私を引き摺るように  
まるで我儘な犬を扱うように引き摺られて

痛い

痛い

痛い

痛い

怖いと

伝える事が出来ない

要らなかった声が欲しくなってしまった  
逃げられる脚が欲しくなってしまった

全てご主人様が捨て去ってくれていたのに。  
私の願いを叶えてくれたモノだったのに。  
私はそれを  
拒み始めているの？

お願いだから



---

人造少女

---

著 saku

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---